

絵本について

富士保育園長 高橋英治

【Q&A】

Q：好きなジャンルが偏っています

A：子どもによってももちろん好みは違いますが、子どもの世界を広げるという意味合いで、お母さんからも働きかけてあげましょう。例えば自動車にしか興味を示さない子どもには、自動車を主人公にしたお話を読んであげるのも一つの方法ですね。

Q：男の子なのであまり本を読みませんが。

A：子どもの性別による本への関心度に違いはありません。ただ、男女によって本の好みには違いがあり、男の子は図鑑、女の子はお姫様物語（白雪姫など）を好む傾向があるようです。その子どもの好みに合った本を選んであげましょう。

Q：勝手にどんどんページをめくってしまいます。

A：このような子どもは割合に多いものです。ストーリーがわからなくなるのでは、とご心配かもしれませんが、例えば「桃太郎」などのお話をストーリーとして理解できるようになるのは、5～6歳からです。もちろん、小さい子どもでも、1ページごとの場面を楽しむことはできます。お母さんはあまり気にせず、様子を見ながら根気よく付き合ってください。

Q：私（母親）が好きで子どもに読ませたい本と、子どもの好きな本が違うのですが。

A：お母さんが好きな本も、じょうずに導入して見せてあげましょう。お母さんがその本を見てゆったりした気持ちになれば、それが子どもにも伝わります。お母さん自身が本を楽しむことが、子どもにもよい影響を与えるのです。最初、興味を示さなくても身近に置いておけば、子どもはそのうち手にとるようになります。

おすすめ絵本

赤ちゃんから6歳ごろまでを発達によって7つの段階に分け、それぞれの時期の子どもの特徴や接し方のポイントと、その段階に合った絵本を紹介しています。ここにあげたものの他にも適当な絵本はたくさんあります。子どもの特徴に合わせていろいろと選んであげましょう。

一般に3歳未満（0～2歳）を対象にした絵本を「あかちゃん絵本」といいます。あかちゃん絵本の特徴は、1冊を通して時間の流れがなく、物語性（ストーリー）があまりないことです。またこの時期の子どもには十分理解できないので、心理的な葛藤を描いた絵本もありません。物語の世界へ踏み出し始めるのは2歳6か月～3歳6か月ごろです。

【生後4か月～7か月ごろ】

いろいろと見せて反応を楽しむ時期です。子どもの様子にあわせて絵本を見せ、反応を楽しみましょう。期待したような反応がないとなんだか不安になりますが、反応がないのも反応の1つですから

心配はいりません。また、文章をそのまま読む必要はありません。子どもの様子を見ながら、ところどころ読んでみましょう。読み方は自由です。

- ・『これなあに』（講談社）・『こんにちはあかちゃん1』（ひかりのくに）・『わんわんどうぶつ』（ひかりのくに）・『こんにちはどうぶつたち』（福音館書店）・『はしれはしれ』（主婦の友社）
- ・『はしれ！かもつたちのぎょうれつ』（評論社）・『りんご』（童心社）・『くだもの』（福音館書店）・『おくちをあーん』（アリス館）・『ママだいすき』（こぐま社）・『ころころころ』（福音館書店）・『もこもこもこ』（文研出版）・『どうぶつ』（ひかりのくに）・『かわいいあひるのあかちゃん』（徳間書店）・『ごろごろにゃーん』（福音館書店）・『はらぺこあおむし』（偕成社）
- ・『ことりはことりは木でねんね』（童心社）

【7か月～1歳6か月ごろ】

子どもの反応がよく見えてくる時期です。子どもの反応に合わせていっしょに楽しみましょう。このころは「言葉の準備期」です。マネをして発声し、短い言葉を覚えていきます。本をめくったり、ひっぱったり、折り返したりして「扱い」も楽しめます。上下さかさまでも平気で見ていることもあります。本の正しい扱い方をやさしく教えましょう。

- ・『みぢかなもの』（文化出版局）・『いぬがいっぱい』（福音館書店）・『でんしゃ』（金の星社）
- ・『はしれはしれ』（主婦の友社）・『ぶーぶーじどうしゃ』（福音館書店）・『がたんごとんがたんごとん』（福音館書店）・『じどうしゃ』（偕成社）・『たべもの』（文化出版局）・『くだもの』（ポプラ社）
- ・『たのしいいちにち』（こぐま社）・『こぐまちゃん おはよう』（こぐま社）・『コロちゃんのいちにち』（評論社）・『おはよう』（偕成社）・『もうねんね』（童心社）・『もうおきるかな』（福音館書店）
- ・『すやすやメイシーちゃん』（偕成社）・『おさんぽあかちゃん』（主婦の友社）・『おふろでちゃぷちやぷ』（童心社）・『したく』（文化出版局）・『いいおかお』（童心社）
- ・『よくきたね』（福音館書店）・『はみがきあそび』（偕成社）・『おさじさん』（童心社）・『パパあそぼうよ』（講談社）・『かぞく』（文化出版局）・『くっついた』（こぐま社）・『おててぱちぱち』（ポプラ社）
- ・『いないいないばあ』（童心社）・『あそび』（文化出版局）・『いたいいたいはとんでいけ』（偕成社）
- ・『あそびましょ』（偕成社）・『とくてく』（クレヨンハウス）・『ごぶごぶごぼごぼ』（偕成社）
- ・『じゃあじゃあびりびり』（偕成社）・『あかちゃんのうた』（童心社）

【1歳6か月～2歳6か月ごろ】

子どもが絵をじっと見るようになる時期です。好きなページを繰り返しじっと見るなど、子ども自身の観察が細かくなってきます。描かれている動作のマネもします。子どもの言葉をよく聞き、子どもとのやりとりを楽しみましょう。なお、この時期は外遊びがおもしろく、本には興味を示さないこともあります。その時は外遊びをめいっぱい楽しんでください。絵本にこだわる必要はありません。

・『どうぶつのおやこ』(福音館書店)・『はたらくじどうしゃ』(金の星社)・『かじをけすじどうしゃ』(金の星社)・『のせてのせて』(童心社)・『ずかん・じどうしゃ』(福音館書店)・『にんじん』(福音館書店)・『ぷくちゃんえほんシリーズ』(アリス館)・『ねんねこさっしゅれ』(こぐま社)・『こんにちは』(ポプラ社)・『ごあいさつあそび』(偕成社)・『おふろでとっぷーん』(ポプラ社)・『おでかけおでかけ』(フレーベル館)・『おててがでたよ』(福音館書店)・『ないたこだあれ』(ポプラ社)・『あーんあん』(福音館書店)・『いやだいやだ』(福音館書店)・『きれいなはこ』(福音館書店)・『いっぱいいたべよう』(ポプラ社)・『きゅっきゅっきゅっ』(福音館書店)・『どうぶつのおかあさん』(福音館書店)・『おとうさんあそぼう』(福音館書店)・『どーこだどこだ』(童心社)・『たたくとぽん』(あかね書房)・『こぐまちゃんとボール』(こぐま社)・『みんなにげた』(ひかりのくに)・『あっあっあっ、みーつけた!』(童心社)・『いないよいないよ』(ポプラ社)・『あっぷっぷう』(ポプラ社)・『すりすりももんちゃん』(童心社)・『うしろにいるのはだあれ』(童心社)・『たまごのあかちゃん』(福音館書店)・『たんたんぼうや』(福音館書店)・『いないいいないばああそび』(偕成社)・『どうよう(ぞうさん)』(講談社)・『いっぱいやさいさん』(至光社)・『ゆめにここにこ』(こぐま社)・『ちいさいおおきい』(ポプラ社)

・『きんぎょがにげた』(福音館書店)・『うみ』(ひかりのくに)・『おつきさまこんばんは』(福音館書店)・『あめふり』(偕成社)・『ぴんぽんだあれ』(ポプラ社)・『でんきつけて!』(ひさかたチャイルド)・『ちびゴリラのちびちび』(ほるぷ出版)・『おきやくさんだーれ』(金の星社)

【2歳6か月～3歳6か月ごろ(物語への出発期)】

簡単な感想が出始める時期です。子どもは想像力が増して、自分から絵の説明をしたり感想をいうようになります。特にうれしい、びっくり、がっかりなど登場人物の気持ちに共感します。想像の世界と一緒に楽しんでください。

・『いぬ』(富山房)・『すきすきどうぶつ』(童心社)・『むしむしだあれ?』(童心社)・『のりものなにか』(講談社)・『はやいぞブンブン』(童心社)・『じどうしゃにのった』(福音館書店)・『もぐらくんぼうけんだすき』(偕成社)・『しろくまちゃんのほっとけーき』(こぐま社)・『もりのパンやさん』(童心社)・『くまくん』(偕成社)・『おきておきて』(フレーベル館)・『おやすみなさい』(ポプラ社)・『ねないこだれだ』(福音館書店)・『こんなときってなんていう?～あいにいくよ～』(ひかりのくに)・『こんなときってなんていう?～ともだちできたよ～』(ひかりのくに)・『はけたよはけたよ』(偕成社)・『ころわんちよろわん』(ひさかたチャイルド)・『こぐまちゃんのどろあそび』(こぐま社)・『あそぶのいっしょ』(小学館)・『くまさんくまさんなにみてるの?』(偕成社)・『あがりめさがりめ』(こぐま社)・『どうよう(ぞうさん)』(講談社)・『いいきもち』(こぐま社)・『たんじょうびおめでとう』(こぐま社)・『ちいさなうさこちゃん』(福音館書店)・『こどもがはじめてであう絵本』(福音館書店)・『おやすみあかちゃん』(主婦の友社)・『わたしのワンピース』(こぐま社)・『おんぶおばけ』(童心社)・『うずらちゃんのかくれんぼ』(福音館書店)・『とんとんとめてくださいな』(福音館書店)・『もぐらくん、おうちをつくろう』(偕成社)・『もぐらくんとまいごのうさぎ』(偕成社)

【3歳6か月～4歳6か月ごろ】

登場人物に自分を重ねるようになる時期です。物語絵本が楽しめるようになってきます。自分の体験や経験に照らして物語を理解し、感想を言うようになります。簡単なストーリーなら、絵を見ながら話したり、文章を覚えて読みます。本のページがじょうずにめくれるようになってきます。子どもの求めに応じて、同じ本でも繰り返し読んであげてください。

・『くまのこくまきち』(ひさかたチャイルド)・『まりーちゃんとひつじ』(岩波書店)・『あおくとときいろちゃん』(至光社)・『ちいさなこぐまのちいさなボート』(主婦の友社)・『ぐるんぱのようちえん』(福音館書店)・『たろうのおでかけ』(福音館書店)・『ぐりとぐら』(福音館書店)・『だいくとおにろく』(福音館書店)・『そらまめくんのベッド』(福音館書店)・『どろんこハリー』(福音館書店)・『三びきのやぎのがらがらどん』(福音館書店)・『しょうぼうじどうしゃじふた』(福音館書店)・『モリスのまほうのふくろ』(文化出版局)・『タンタンのずぼん』(偕成社)・『ひそひそここそ』(ひさかたチャイルド)・『まりとけんのかくれんぼ』(大日本絵画)

【4歳6か月～5歳6か月ごろ】

物語の世界に入る時期です。子どもはよくしゃべり、想像力や創造力が豊かになってきます。また、子どもなりの美意識で絵を見るようにもなります。子どもとのおしゃべりを楽しみながら、いっしょに読みましょう。

・『11びきのねこ』(こぐま社)・『あえたらいいな』(ひさかたチャイルド)・『かしのきホテル』(フレーベル館)・『おにたのぼうし』(ポプラ社)・『あおくとときいろちゃん』(至光社)
・『くれよんのくろくん』(童心社)・『てぶくろ』(福音館書店)・『はじめてのおつかい』(福音館書店)・『こんとあき』(福音館書店)・『もぐらとずぼん』(福音館書店)・『はんぶんちょうだい』(小学館)・『くまのサーシャはなくしやさん』(童話館出版)・『ももたろう』(岩波書店)

【5歳6か月～6歳ごろ(就学前)】

言葉に敏感になる時期です。おとなが使う言葉の意味を「なに？」と聞いたり、自然や社会の現象に興味や関心が広がって「なぜ」「どうして」を連発するようになります。文字を拾い読みします。子どもの興味や関心を大切にしつつ、おとなが「よい!」「なるほど!」と感動する絵本も、無理のない程度にじょうずに加えていきましょう。

・『カマキリくん』(こぐま社)・『どうぶつはやくちあいうえお』(のら書店)・『お料理あそび』(岩波書店)・『いのちの木あるパオパブの一生』(岩波書店)・『おいしいのぼうけん』(童心社)・『ぼくがげんきにしてあげる』(徳間書店)・『おふろだいすき』(福音館書店)・『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』(福音館書店)・『よるのびょういん』(福音館書店)・『おおきくなりすぎたくま』(福音館書店)・『のぼっちゃう』(文化出版局)・『キャベツくん』(文研出版)・『ぼくをだいて』(偕成社)・『いっすんぼうし』(すずき出版)・『だってだっておばあさん』(フレーベル館)・『ゆきだるま』(ひさかたチャイルド)・『きゅうきゅうばこ』(福音館書店)